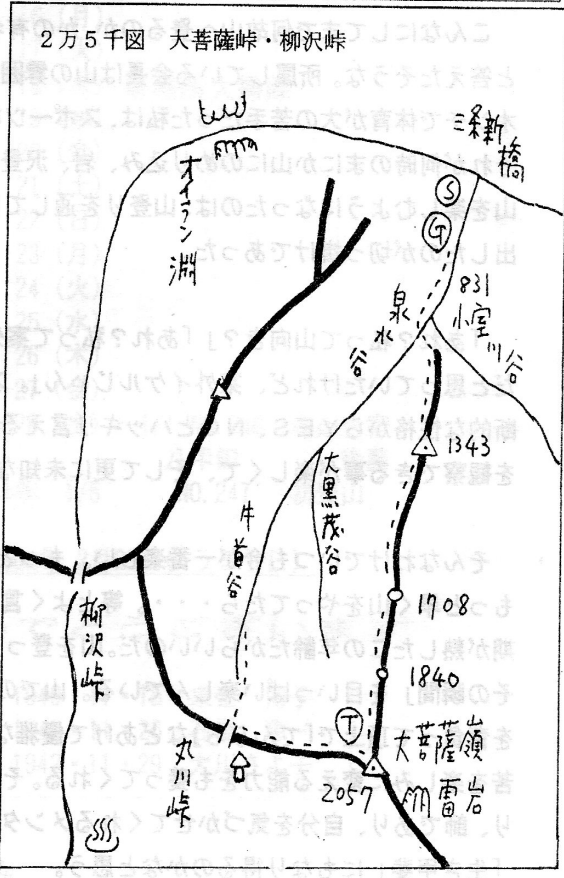


通算山行NO	会山行報告書・242a		報告者	森田利一
年月日	2002年10月11日(金)~10月12日(土)		天候	晴れ
山行名	秋山合宿a隊(地図読み山行)	山名	大菩薩嶺(2057m)北尾根	
セールスポイント	大きな標高差と歩かれていない静かな山域。地図読みの学習を兼ねて。紅葉も素晴らしい。			
コースタイム	(10/11金)事務所19:00→三条新橋2230(テント泊) (10/12土)起床5:00→出発6:00→大菩薩嶺11:35→丸川荘13:58→B C16:08→大菩薩の湯17:00→事務所20:30			
標高差	△▼S小室川出合831m~大菩薩嶺2057m	体力度	123④56	
	=約1226m	技術度	12③456	
走行距離	事務所~三条新橋=150Km	展望度	12345⑥	
コーチ	後藤隆徳	北尾根はナイス。モリタ君よくガンバった。		
CL	長岡浩一	百名山、大菩薩も捨てたもんじゃない。		
医療	加藤秀子	人の入らない道は静かでいい。		
記録	森田利一	山慣れしてないのか、体力がないのか。苦しい登山。でも、眺めはOK!		

裾野の事務所を11日金曜の19時に出発。塩山、柳沢峠を越え、テント泊地の三条新橋に到着したのは22時30分頃であった。軽く晩酌などしたあと就寝。本当に山の中でどんな感じだろうとの思いに浸るまもなく寝てしまった。

翌12日土曜、05時起床。長岡の携帯の「アルプスの少女ハイジ」で目覚める。腹ごしらえをしているときに、きのこ採りらしい人たちが籠を背負って通過していく。個人で食べるには大きすぎる籠なので、商売で使うものであろうか。

腹ごしらえも終了して06時出発。林道をしばらく歩き06時30分頃に出合にぶつかる。ここでいきなり読図演習。が、森田は2万5千分の1の地図を持っているだけで、宿題の標高や目標となる建物等の名称を記入していない。ここで、後藤から教育的指導が入る(いや注意か)。コンパスも一応は持っているが使い方が判らないでは話にならない。指



導を受けつつ、登山を再開。分け入るとさすがに「秋」ということで、きのこがあちこちに生えている。森田を除く三名は「ここにもある」「これは食べれるのかな」ときのこ探りに興味津々。一方の森田は既にばて気味。07時25分、1回目の休憩。木立の中の空気がひんやりと気持ちが良い。ここでも読図演習。が、森田は地図をビニール袋に入れていなかったため、既に汗で濡れている。「地図読みが目的。いちいち自分の位置と目的地を確認しながら進むこと」とコーチの後藤より注意。なんだか、指導やら注意であわせ技敗退の予感。ヤマケイ登山学校の「山の地図と地形」を一夜漬けて読んだが、やはり泥縄ではいけない。

その後、標高1400m付近で見事な天然杉を見る。時間は08時20分。が、既に森田に周囲の景色や自然を楽しんでいる余裕はない。他の三名が翔ぶが如く進んでいくのを、足を引きずるようになっていくのがやっとな。08時44分、2回目の休憩。大汗を一人だけかいている森田を心配し、荷物の確認。1Lのペットボトル2本は負担が多かろうということで、後藤と長岡が分担して預かることとなる。09時35分、1780m地点を通過。このあたりから、笹こぎをしなくて先に進めないような状況になる。最初は最遅の森田が先頭で笹こぎをして進んでみたが、何せ道がよくわからない。途中で他の者に変わってもらい先に進む。

とにかく、登ったと思ったら下るというパターンが繰り返される。笹こぎなるもの初体験の森田は要領がわからない。先頭の人を見失い立ち往生することも度々。だんだんと自己嫌悪に陥っていく。が、止まっても仕方がないので、がむしゃらに進む。相変わらず他の3名は汗もほとんどかかず、きのこがないかを探しながらの登山である。

10時16分、笹が多少開けたところで、3回目の休憩。既に森田は読図できる状態ではない。何も口にしないとしゃりばてするという加藤の言葉に、バナナとソーセージを一本ずつ口にして出発する。

周りには大きな木々が立ち並び、野生動物、その他の山の景観もあったのであろうが、記録の森田はほとんど記憶していないのでここに記すことが出来ない。非常に申し訳ない。

10時34分、1840m地点通過。大菩薩嶺までの標高差は約200mとなった。が、森田の足取りは遅々として進まない。それでも、先が見えてきたためか、三步進んでは一息つくといった感じで歩を進めていく。

11時35分、大菩薩嶺頂上2056.9mにようやく到着。が、林に遮られてあまり眺望はよくない。この先10分程度行ったところに見晴らしのよいところがあるとのことで、そこまで歩く。11時45分、見晴台到着。他の登山道から登ってきた登山者が寛いでいる。我々も場所を見つけて昼食をとる。見晴台からは南のほうに上日川ダムのダム湖が広がり、その向こうには富士山の姿が見える。素晴らしい眺め。登ってきた苦勞が報われるというのはこういう光景をいうのだろうと感じる。

小1時間ほど休憩し12時58分に下山開始。もちろん、帰りは北尾根ではなく、丸川荘に向かったの登山道を下る。北尾根に比べれば、当然よく整備されており、したから登ってくる人にも出会う。グループもいれば、個人で登っている人もいる。聞くと、大抵の人は大



北尾根から大菩薩嶺

菩薩嶺に登ってから富士見山荘に宿泊するようであった。が、中には TENT を背負っている人も見られた。13時58分、丸川荘到着。まさに「山小屋」といったところ。

中に入ってコーヒーやビールをいただく。ここの主、非常に立派な眉毛の持ち主であった。後藤が、今日の入山者の様子を聞くといつもの土曜と同じくらいか、少し少なめとのこと。あれだけ、登りの人とすれ違ったが、ピークにはもっと登山者が来るのであろうか。

30分ほど丸川荘で休み14時30分出発。後は、林道をひたすらBCまで歩くだけだ。と、言っても林道を歩いて3時間程度はかかる。BCにつく頃にはすっかり夕方である。

15時15分、加藤がBCまで走って車を持ってくることを提案。後藤にザックを預けて、走る走る。あの、パワーの半分でもあれば、もう少し景色を楽しむ余裕があるのではないかと森田は思う。林道沿いに沢が流れているが、見事なナメが続いている。沢登したら気持ちよいのだろうななどと思いながらBCに向けて歩く。

16時04分、加藤がBCの車を持って到着する。林道工事が行われていて「入っていけないよ」といわれたが「調子を悪くした仲間がいるので車で迎えに行く」といって通してもらったらしい。と、いうことで、半死半生状態の森田が後部座席で「病人」と相成ることとなった。途中、工事の人にも会ったが疑う人もなく無事通過。

17時00分、塩山市交流保養センター「大菩薩の湯」に到着。一風呂浴びてさっぱりする。あちこちにこういった施設が出来て快適なことこの上ない。が、ここでの食事はイマイチであった。

18時28分、大菩薩の湯を出発。来るときと違い、帰りはなかなか早い。道を間違えることもなく、20時30分、無事事務所へ到着した。

## その他の記述

1. 泉水谷林道は現在工事中で入れない。
2. 泉水谷林道から泉水谷の橋を渡り、小室谷歩道を10分歩いた尾根の末端が取り付け。
3. 下部はフナ、上部はミズナラ、ツガの森。
4. ミズナラの森でマイタケを探したが見つからなかった。
5. ピーク1344mには三角点がある。
6. 1780m付近には泉水谷方面から大黒茂谷方面に向かう立派な東京都の水源逓視路がある。この先からやや藪が濃くなる。
7. 上部から鷲冠山、雁坂方面、甲斐駒、八ツが見える。
8. 縦走路手前の大岩に黄ペンキの矢印があった。他に朽ちた道標もあり。ただし、赤布は一切ない。
9. 頂上手前は丸川峠からの縦走路に出る。
10. 丸川峠周辺は素晴らしい。青い空をバックにマユミの実が風に揺れ、ひなびた小屋の煙突からオヤジが入れるカフェの煙がのんびりと流れていた。(1~10は後藤)
11. 北尾根はフカフカ道で歩き易かったが、縦走路は硬く歩き難かった。
12. 森田君はバテそうでもバテない。とても粘り強かった。
13. 丸川荘は良い所。冬なんか行ってみたい。(11~13は長岡)
14. 小屋のカフェは美味しかった。オジさんは優しそう。
15. 工事中のオジさんは親切だった。オジさんありがとう。(14~15は加藤)